

平成9年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

1998

長野県更埴市教育委員会

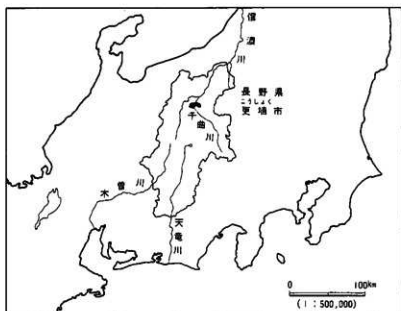


平成9年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

1998

長野県更埴市教育委員会



更埴市の位置

例 言

- 1 本書は、更埴市教育委員会が平成9年度に実施した埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査は、更埴市教育委員会文化課が主体となり、文化財係が担当した。また調査の一部については、森將軍塚古墳館学芸員の協力を得た。

更埴市教育委員会事務局

教育長 下崎文義

教育次長 矢島弘夫

文化課長 西巻 功

文化財係長 下崎雅信

文化財係 佐藤信之 小野紀男 宮島裕明 市川由江

- 3 調査担当者は、文化財係担当職員及び森將軍塚古墳館学芸員があたり、調査員・作業員を募り調査を実施した。また、必要に応じて研究者の指導助言を受けた。
- 4 本書は、各調査担当者が執筆して作成した。発掘調査のうち、規模の大きなものについては本書とは別冊で報告している。
- 5 本書に掲載した位置図は、特にことわりがない限り、更埴市都市計画基本図を2分の1にし5,000分の1で掲載した。
- 6 本書中の方位は真北を示している。
- 7 各調査の出土遺物・実測図・写真等のすべての資料は更埴市教育委員会が保管している。なお、資料には各調査ごとに調査記号を付し、保管されている。

目 次

例言・目次		
	平成9年度埋蔵文化財調査概要	1
1	屋代遺跡群 発掘調査	7
2	大塚遺跡 発掘調査	10
3	池尻遺跡 発掘調査	13
4	馬口遺跡 発掘調査	29
5	中ノ宮・南栗水遺跡 発掘調査	32
6	湯ノ崎遺跡 発掘調査	35
7	大宮遺跡 発掘調査	39
8・11	町浦遺跡 発掘調査	47
9	屋代遺跡群 発掘調査	50
10~14	試掘調査	52
10	更埴桑里水田址	
12	治田池遺跡隣接地	
13	屋代城跡	
14	唐崎遺跡	
15~30	立会調査	56
15	南沖遺跡	
16	宮西遺跡	
17	島遺跡	
18	城ノ内遺跡	
19	横まくり遺跡	
20	城ノ内遺跡	
21	土井合遺跡	
22	更埴桑里水田址	
23	馬口遺跡	
24	大池南遺跡	
25	大境遺跡	
26	北野遺跡	
27	更埴桑里水田址	
28	更埴桑里水田址	
29	鈍物師屋遺跡	
30	五輪堂遺跡	

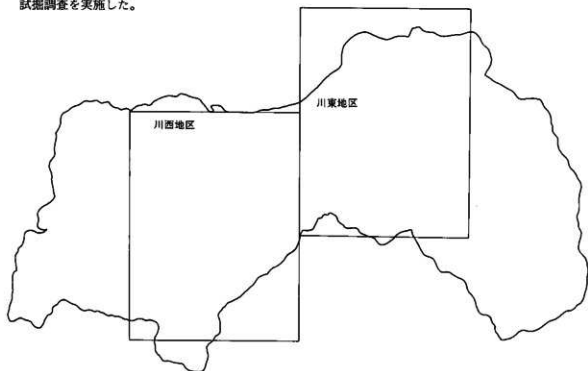
平成9年度埋蔵文化財調査概要

今年度実施した発掘調査は9件あり、昨年度とほとんど変化ないが、調査費用では20,000,000円以上減額となっている。自動車道や新幹線関連の調査は終了したが、道路の建設や学校の改築など、公共事業で7件の発掘調査が実施されている。民間の開発事業に伴う発掘調査は1件と、例年とくらべてかなり少なかった。

公共事業では、平成7年度に調査を開始した土口バイパスの調査は、上信越自動車道の西側部分の調査を姉長野県埋蔵文化財センターが実施した。したがって、市は東側の残り2,000㎡の調査を実施した。これまでに約450棟の住居跡や官衙に関連する遺構などを検出し、建設予定地すべての調査を完了した。平成10年度から整理作業に入る予定である。また、今年度から厩代中学校の改築に伴う調査が、平成11年度までの予定で開始された。大田原地区のマレットゴルフ場建設に伴い実施された調査では、更埴市ではほとんど調査例のない縄文時代の遺構や遺物が検出されている。昨年に続いて実施された稲荷山公園の調査では、未確認の古墳2基が検出され、古墳を活用した公園作りが検討されている。このほか公共事業では道路の建設に伴い2件の調査が実施されており、県道の拡幅に伴う調査では、片側交互通行にしての調査となった。

平成8年度から、国庫補助を受け調査を実施している厩代遺跡群の発掘調査は、土口バイパスの調査で掘立柱建物跡が検出された部分の北側を調査したが、官衙に関する遺構及び遺物の検出はなかった。平成10年度以降も継続調査の予定である。

民間事業に伴う調査は、倉庫の建設に伴い発掘調査が1件実施されているが、全体的に落ち着いた状況にある。特に宅地造成に伴う調査が減少しており、試掘調査・立会調査合わせて4件しかなかった。また、大規模店の建設予定地では、周知の遺跡に含まれていなかったが、遺跡隣接地であるため試掘調査を実施した。



第1図 調査位置配置図

平成9年度調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	原因事業	原因者
発掘調査				
1	屋代遺跡群	雨宮	公共＝道路建設	更埴建設事務所
2	大塚遺跡	屋代	公共＝中学校建設	更埴市（学校教育課）
3	池尻遺跡	森原	公共＝マレットゴルフ場建設	更埴市（企画財政課）
4	馬口遺跡	屋代	公共＝便所建設	長野県屋代高等学校
5	中ノ宮・南粟水遺跡	森	公共＝道路建設	更埴市（建設課）
6	湯ノ崎遺跡	稲荷山	公共＝公園建設	更埴市（都市計画課）
7	大宮遺跡	雨宮	公共＝道路建設	更埴建設事務所
8	町浦遺跡	雨宮	民間＝倉庫建設	田澤佑一
9	屋代遺跡群	雨宮	学術＝範囲確認調査	更埴市（文化課）
試掘調査				
10	更埴条里水田址	屋代	民間＝ビニールハウス建設	ちくま農業協同組合
11	町浦遺跡	雨宮	民間＝倉庫建設	田澤佑一
12	治田池遺跡	稲荷山	民間＝店舗建設	憐ツルヤ
13	屋代城跡	小島	民間＝宅地造成	日本勤労者住宅協会
14	唐崎遺跡	雨宮	民間＝工場建設	憐アイリー＝やしや
立会調査				
15	南沖遺跡	粟佐	民間＝店舗建設	憐エムケー興産
16	宮西遺跡	粟佐	民間＝モデル住宅建設	セキスイハウス信州憐
17	島遺跡	生置	民間＝宅地造成	憐林不動産
18	城ノ内遺跡	屋代	民間＝工場建設	長野電子工業憐
19	横まくり遺跡	八幡	民間＝宅地造成	長坂建設憐
20	城ノ内遺跡	屋代	民間＝工場建設	長野電子工業憐
21	土井合遺跡	桜堂	民間＝店舗建設	長野スバル自動車憐
22	更埴条里水田址	森	民間＝事務所・倉庫建設	更埴花卉球根組合
23	馬口遺跡	屋代	公共＝三旗掲揚塔建設	長野県屋代高等学校
24	大池南遺跡	八幡	公共＝道路建設	更埴市（農林課）
25	大境遺跡	屋代	民間＝宅地造成	久保高久
26	北野遺跡	雨宮	民間＝浄化槽建設	山崎製パン憐
27	更埴条里水田址	森	民間＝店舗建設	憐アト模型
28	更埴条里水田址	森	公共＝水路改修	長野地方事務所
29	餅物館屋遺跡	餅物館屋	民間＝工場建設	森川産業憐
30	五輪堂遺跡	屋代	公共＝三旗掲揚塔建設	長野県屋代南高等学校
（財）長野県埋蔵文化財センター				
31	屋代遺跡群	屋代	公共＝道路建設	更埴建設事務所

調査期間	面積	費用	備考
H9・4・17～6・27, 9・22～12・18 H10・2・18～3・24	2,000㎡	22,500,000円	H11報告書刊行予定
H9・4・21～6・13, 10・8～12・11	1,900㎡	10,239,078円	H10・11調査実施
H9・6・27～8・8	700㎡	1,447,637円	
H9・6・23～6・25	30㎡	360,000円	
H9・7・1～7・4, 10・1～11・13	1,200㎡	4,208,260円	
H9・7・2～10・9	600㎡	3,968,827円	
H9・10・28～11・5	200㎡	900,000円	
H9・8・20～9・25	400㎡	1,860,000円	
H10・2・18～3・24	180㎡	2,008,745円	H10・11・12調査実施予定
H9・6・3	トレンチ3		
7・4	トレンチ2		発掘調査実施(番号8)
12・4	トレンチ4		
H10・1・19	トレンチ5		
2・9	トレンチ4		
H9・4・4			
5・7, 6・3			
5・26			
6・4			
9・2			
9・24			
10・6			
10・15			
11・12			
12・3			
12・3			
12・5			
12・22			
H10・1・19			
2・3			
3・18			
H9・4・14～12・19	4,000㎡		



第2図 更埴市川西地区調査位置図 (1:25,000)



第3図 更埴市川東地区調査位置図 (1:25,000)

1 屋代遺跡群 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群(市台帳No.31 調査記号YD)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字両宮字町浦
長野県
- 3 原因及び
事業者 公共事業=土ロバイパス建設工事
更埴建設事務所
- 4 調査の内容 発掘調査(調査面積約2,000㎡)
- 5 調査期間 平成9年4月17日～平成10年3月24日
- 6 調査費用 22,500,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 集落跡 弥生～平安時代
- 9 遺構・遺物
住居跡 弥生～平安時代 約100棟
掘立柱建物跡 平安時代 2棟
井戸 平安時代 3基
土器 弥生～平安時代 コンテナ 100箱以上
骨角器・獣骨 弥生～平安時代 コンテナ 1箱



第4図 屋代遺跡群調査位置図

II 調査の所見

検出された遺構は、弥生時代から平安時代の住居跡が主体であったが、基壇状の石組や井戸なども検出されている。

弥生時代 調査区東側から4棟の住居跡が検出されている。いずれも調査区外にかかっているため完掘できなかったが、自然堤防上に展開する集落の移動を知る良好な資料となる。

古墳時代 調査区全域から検出されている。4世紀から5世紀のカマドを持たない住居跡が多く、特に416号住居跡からは、S字状口縁を持つ甕など東海地方の影響を受けた土器群が出土している。またD地区では、祭祀に関係する遺構なども検出されている。

奈良・平安時代 調査区全域から検出されており、約60棟がこの時期の住居跡である。特に注目されるのは268号住居跡で、仁和の洪水砂で埋没したため、カマドが完全な形で残っていた。C地区から検出された井戸は、建築部材を井戸枠に転用しており、今後の調査により、平安時代にこの地に存在した建物を立体的に復元できる可能性がある。また基壇状の石積を検出できたことから、寺院などの建物があつたことも想定できる。

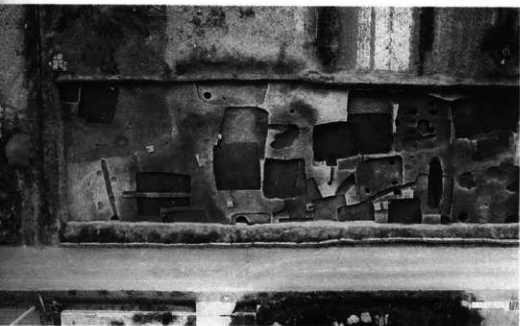
平成10年度から整理作業が実施され、平成11年度に報告書刊行予定である。



屋代遺跡群
C地区北側全景
(西側より)



C地区西側全景
(西側より)



D地区全景

屋代遺跡群
住居跡調査風景
(東側より)



268号住居跡
(西側より)



井戸跡
(南側より)

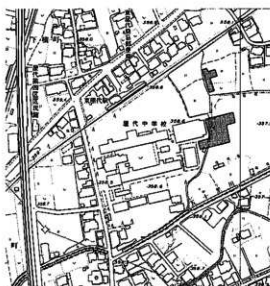


2 大塚遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ミナト 大塚遺跡
(市台帳No31-1 調査記号OTK)
- 2 所在地及び 更埴市大字厩代字大塚830 他
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び 公共事業=学校改築
事業者 更埴市(学校教育課)
- 4 調査内容 発掘調査(調査面積約1,900㎡)
- 5 調査期間 平成9年4月21日～6月13日
同年 10月8日～12月11日
- 6 調査費用 10,239,078円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡・水田跡 平安時代
- 9 遺構・遺物

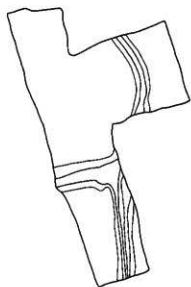
住居跡	古墳時代	1棟
水田跡	平安時代	1面
土坑	平安時代	3基
溝	古墳～平安時代	11基
土器片	平安時代	コンテナ 4箱



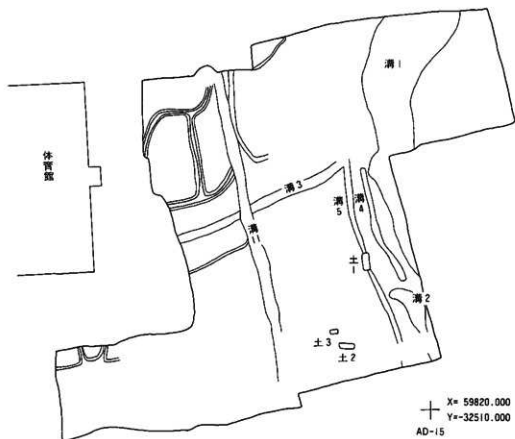
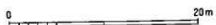
第5図 大塚遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査は更代中学校改築に伴い実施したものである。調査地周辺では昭和43年に校庭南東隅の発掘調査が行われ、平安時代の住居跡が検出されている。今回の調査でも平安時代の集落跡の存在を想定して調査を開始したが、検出した該期の遺構は水田面1面と土坑、溝跡であった。水田面は厚い砂層で覆われていて最大1.5mの厚さを測る。検出した畦畔には幅2.5m、1.5m、1m程の3種類のものが見られる。このうち最も幅の広い畦畔はほぼ東西に走っており、条里的坪を画する畦畔とも考えられるが、その他の畦畔は坪の内部を画している畦畔とは考えられない。溝跡は、上部が攪乱されていたため正確な規模は不明であるが、幅は現状で6m以上ある。攪乱のため、水田址との関係は明らかではないが、昭和61年に発掘調査が行われた馬口遺跡においても同様の溝跡が検出されており、その関係が目される。今回の調査では、条里的地割は本調査地点までは到達していない可能性が高まった。今後は更地条里水田址と集落域の関係、水田への灌水方法の解明などが重要になるものと考えられる。なお、本調査は平成10年度に継続する予定である。



+ X= 59880.000
 Y= -32510.000
 AX-15



第6図 大塚道跡遺構全体図



大塚遺跡
調査区全景
(北側より)



調査風景
(西側より)



左：1号住居跡
(西側より)



右：2号土坑
(西側より)

3 池尻遺跡 発掘調査

I 調査の概要

第1節 概要

- 1 調査遺跡名 いびり池尻遺跡（市台帳No83）
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
更埴市大字桑原字池尻
- 3 原因及び
事業者 更埴市（企画財政課）
公共事業＝マレットゴルフ場建設
- 4 調査内容 発掘調査・一部立会調査（調査面積約700㎡）
- 5 調査期間 平成9年7月2日～8月8日
- 6 調査費用 1,447,637円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
調査参加者 狼渡久人 国光一穂 久保啓子 中村文恵 松林一清 松林幸子 松林素一
丸山正子 宮本銀作 杉津ともみ
事務局 西巻 功 下崎雅信 佐藤信之 小野紀男 宮島裕明
種別・時期 散布地 縄文・平安時代
遺構・遺物 縄文時代 土坑 12基
出土遺物 コンテナ 1箱

第2節 調査の経過

大田原辺地計画に伴うレクリエーション施設の建設が池尻遺跡内に計画されていたため、平成7年4月24日、企画財政課と共に現地確認を行った。計画地は開墾された地区であるが、池尻遺跡と一部跡遺跡にかかっていることを確認した。6月13日、地元打ち合わせ会で遺跡について説明を行い、試掘調査について了解が得られたため、試掘調査の準備を開始した。6月27日から7月13日までに33か所の試掘坑を設定し掘り下げた結果、開墾により削平されている部分もあったが、一部で遺構と思われる落ち込みも確認された。7月20日、調査結果について企画財政課と協議を行い、工事の実施が平成9年度になるため、調査は平成9年度に行うこととした。

平成8年4月25日、埋蔵文化財発掘の通知が提出され、県教育委員会から発掘調査を実施して保護に当たるよう通知があった。

平成9年2月21日、企画財政課と発掘調査の実施について協議を行い、マレットゴルフのコースについては、原地形を破壊しないよう設計したため、調査は管理棟・管理道路について実施することとなった。4月9日、搬入道路部分の調査を行い、7月2日から本調査に入った。

第3節 調査日誌

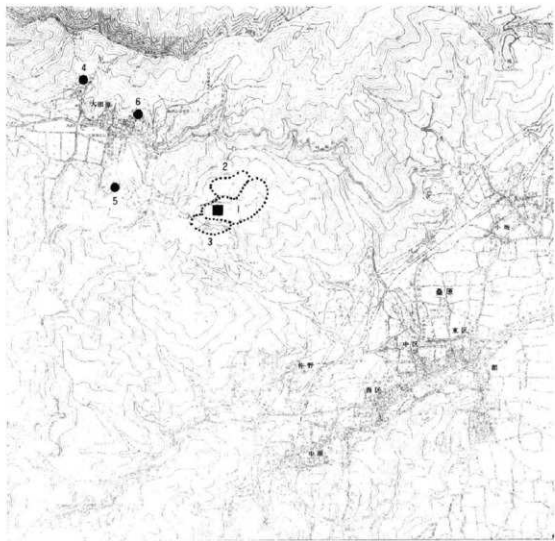
- 平成7年6月27日 作業員入り 試掘調査開始
- 7月13日 33か所の試掘坑を掘り、遺構と思われる落ち込みなどを検出して試掘調査完了
- 平成9年4月9日 工事用道路となる部分の試掘調査を実施したが、遺構の検出はなかった
- 6月16日 工事用道路立会調査
- 27日 機材を搬入し、調査部分の伐採を行う
- 7月2日 作業員入り、中央部分から北側の発掘調査開始
- 7日 1週間雨が続く
- 22日 実測を始める
- 24日 北側部分の調査が完了したため、南側部分の調査に入る
- 8月3日 道路部分の調査が完了したため、管理棟部分にトレンチを入れる
- 4日 掘り下げ完了し、全体写真撮影
- 6日 残った実測を行い、機材撤収。現場における調査は完了とする

II 遺跡の環境

池尻遺跡は、更埴市大字桑原字佐野山に位置している。千曲川西岸の稲荷山から直線距離で約4km西へ進むと標高755m前後、千曲川との比高約400mの大田原集落となる。東西が開けた谷間の平坦地に営まれた集落で、集落南側には溜め池を利用して水田が作られており、更埴市で最も標高の高い水田地帯となっている。大田原の集落から約800m東へ寄った部分に拱積世末期のローム層をのせた丘陵状の台地があり、遺跡はこの台地上に広がっている。台地最高部の標高は770m程で、東端からは、北は善光寺平が一望でき、南は上田市まで見渡すことができる。現在大田原に入るには、県道小峰・稲荷山線が利用されているが、昭和13年に完成された道路であり、それ以前は台地の南縁を通る田原坂が利用されていた。台地から北側へ25m程下がった地点には湧水があり、現在も水田に利用されている。台地上の遺跡は中央部分を池尻遺跡、南側を鈴遺跡、北側を佐野山遺跡と呼称しているがおそらく一連の遺跡であろう。

一帯は昭和19年に開墾され、その後耕作されず雑木林となっていたが、昭和36年に再び開墾が行われた。その際多量の遺物が出土したため、昭和38年に更級地科地方誌刊行会によって発掘調査が実施された。調査により縄文時代早期から前期、後期から晩期、弥生時代中期の土器群のほか、平安時代の住居跡や須恵器焼成遺構などが検出されている。

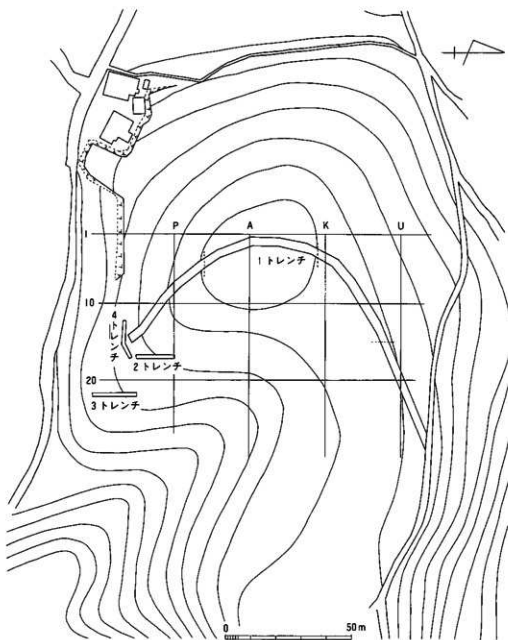
大田原周辺では須恵器の登り窯が確認されている。集落北側の斜面には上日向窯跡群・山崎遺跡、南側には向山窯跡があり、かなりの窯業地域であったと思われる。昭和59年に更埴市史刊行に伴い、上日向3号窯の発掘調査が実施された。窯は半地下式の登り窯で、灰原からは8世紀中頃の須恵器群とともに瓦が出土しているが、瓦の供給先については判明していない。



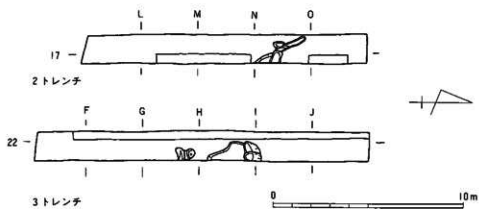
第7図 池尻遺跡位置図



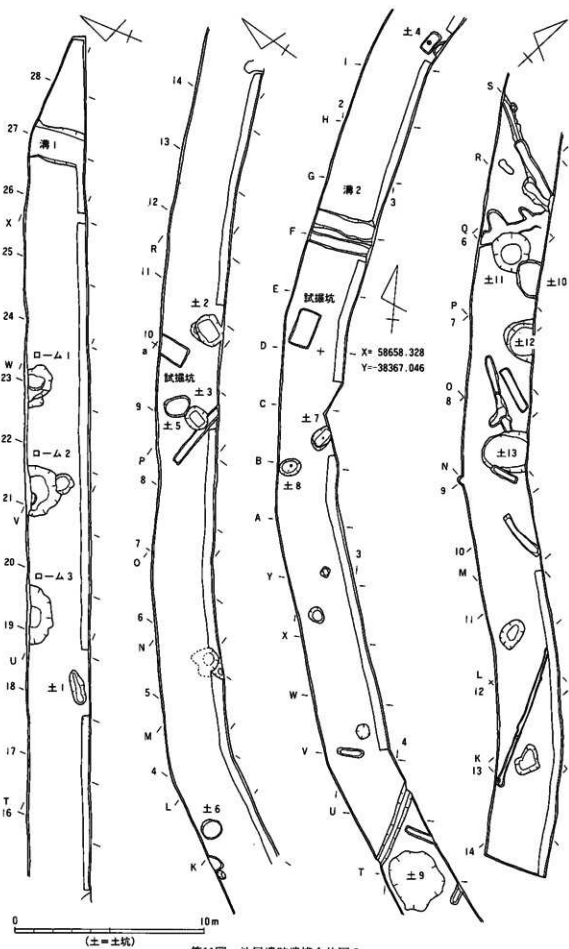
第8図 池尻遺跡遠景



第9図 池尻遺跡調査位置図



第10図 遺構全体図1



第11圖 池尻遺跡遺構全体図2

III 遺構と遺物

遺 構

調査区の土層は、基本的には表土である黒色土の下にロームブロック混じりの暗褐色土があり、その下がローム層となるもので、薄い部分では20cm、厚い部分でも50cmでローム層に達してしまう。したがって検出された遺構はすべてローム面からである。

検出された遺構には、土坑・溝、いわゆるロームマウンドなどがあるが、ほとんど判出する遺物がなく、時期不明のものが多い。

1号土坑

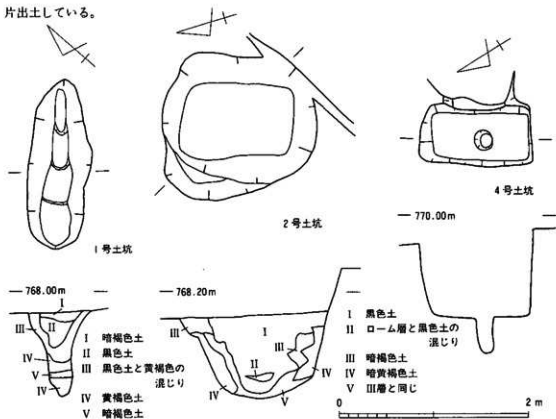
調査区北側で検出された遺構で、幅約60cm、長さ180cmと細長い土坑である。深さは東側で135cmを測り、西側に進むにしたがって浅くなる。掘り込みはV字状で、明確な底部を持っていない。

2号土坑

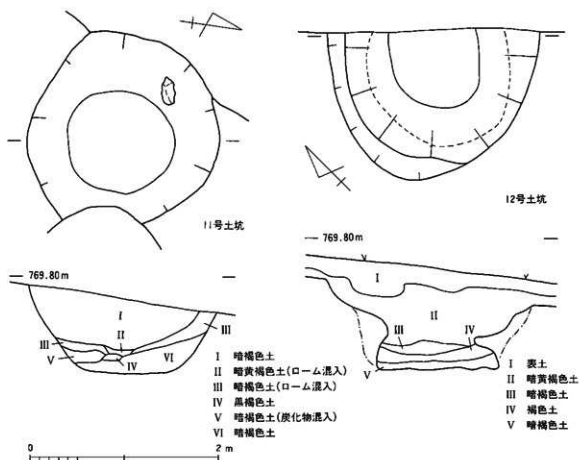
調査区北側で検出された遺構で、幅130cm、長さ160cmほどの隅丸長方形の土坑である。掘り込みは上部が開くU字状で、深さ90cmを測る。

4号土坑

調査区中央で検出された遺構で、幅50cm、長さ100cmほどの長方形の土坑である。ほぼ垂直に掘り込まれており、深さは90cmを測ることができる。底部は平坦で、中央部に直径15cm、深さ35cmの掘り込みがある。7号土坑もほぼ同じ規模を持っており、底部にピットが1つある。条痕を持つ土器が数片出土している。



第12図 池尻遺跡1・2・4号土坑



第13図 池尻遺跡11・12号土坑

11号土坑

10号土坑に切られた土坑で、直径約200cm、深さ90cmを測ることができる。掘り込みはボール状で、覆土に炭化物の混入が観察できる。遺物は同一個体と思われる26・41のほか、黒曜石の剥片などが出土している。

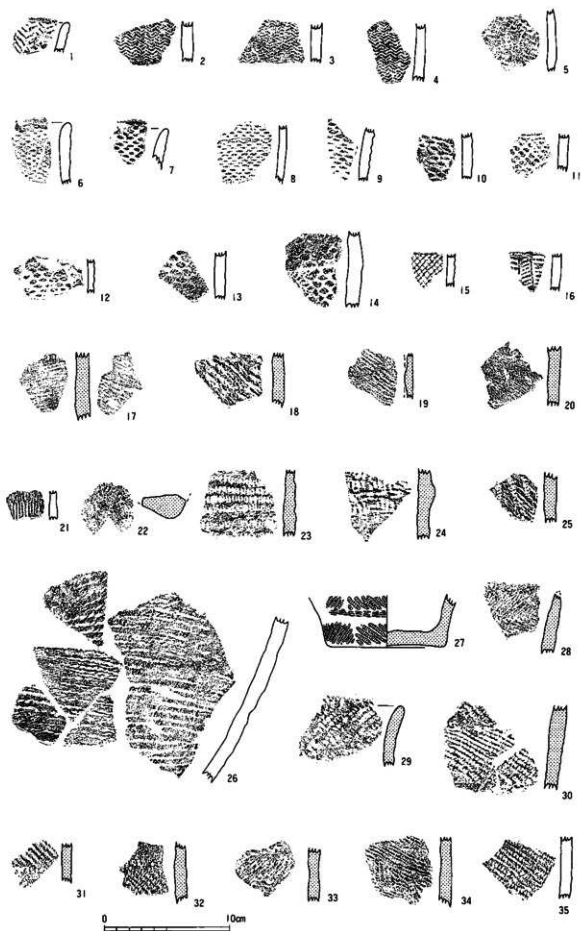
12号土坑

調査区南側で検出された遺構で、東側は調査区外となる。直径約200cmの不整形円形で、深さは100cm程を測ることができる。掘り込みはいわゆる袋状で、底部から40cm程上がった部分でくびれている。底部は平坦であったが軟弱であった。土器片と黒曜石の剥片が出土している。

全体図に番号を明記しなかった遺構及び溝などは、多くが近世以降の掘り込みか、植物の根などによるものと思われる。

遺物

今回の調査で出土した遺物は、試掘調査分も含め100点程でいずれも小破片であった。また、一部を除き遺構との関連、あるいは層位的に区別できなかったため、土器については一括して「群」とし、石器については器種別にまとめた。



第14图 池尻遺跡出土土器 1

土器

1群 (1~16)

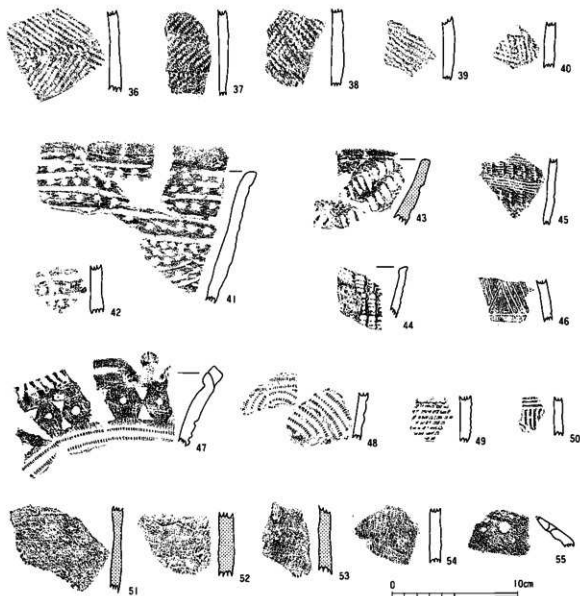
押型文を持つ一群で、山形文を持つ1~5と楕円文6~14、市松文の15、矢羽根状の16がある。口縁部破片である1・6・7の端部はいずれも丸く仕上げられている。14は無文帯を持つようであるが、ほかは文様か破片全面に施されており無文帯を持たない。山形文には山の幅が15mm前後と10mm前後のものがあり、楕円文にも幅5mm前後と3mm程の2種がある。

2群 (17~22)

条痕文を持つ一群で、胎土に繊維を含むものと、含まない21がある。条痕は幅が大きく印刻も深いものとハケ状のものがある。17は表裏に条痕が観察できる。

3群 (23~25)

絡条体圧痕文を持つ一群で、いずれも胎土に繊維を含んでおり、焼成はあまりよくない。隆帯を持つ24は隆帯上に半截竹管による押引文を施し、上下を絡条体圧痕文ではさんでいる。



第15図 池尻遺跡出土土器 2

4群 (26)

26は摺糸文を持つ一群で、いずれも同じ土坑から出土している。5～7mmの間隔で斜位に施文されており、焼成は良く、胎土に雲母を多く含んでいる。6群の41も同じ土坑より出土しており、胎土も同様であることから、同一個体と思われる。

5群 (27-40)

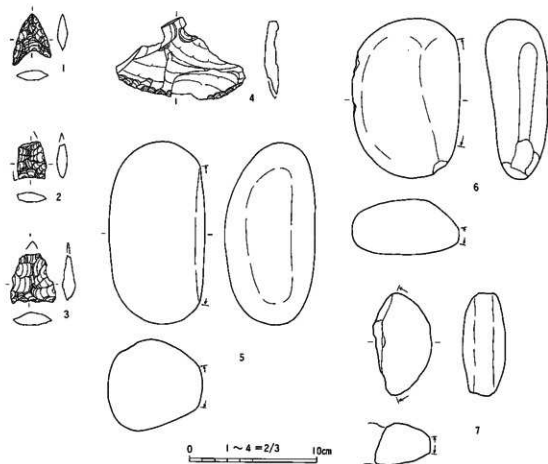
縄文を持つ一群で、胎土に繊維を含む27-34と、含まない35-40がある。29・33は無節の縄文であるが、ほかは単節の縄文であり、単節の中には0段多糸のものが含まれている。また結束により羽状としている29や、端部をループ状にした31・37などがある。

6群 (41-46)

沈線文・刺突文を持つ一群で、41は棒状工具による沈線と押しを、口縁部と平行に交互に施して文様帯としている。43は胎土に繊維を含んでおり、口縁端部は平坦になり、板状工具による刺突を連ねて文様としている。44は櫛歯状工具による刺突が施されており、口縁端部は平坦となる。45も同様の工具による刺突と平行沈線が施されている。共に胎土はよく精製されており、白色粒を含んでいる。46は鋸歯状に沈線を施し斜位の沈線を充填したもので、弥生時代の土器とも思えるが、ほかに遺物がないため不明である。

7群 (47-50)

浮線文系の一群で、47は半截竹管で刻んだ浮線文で体部と口縁部を分け、口縁部には三角形と円形



第16図 池尻遺跡出土石器

の印刻が施されている。口縁端部は「く」の字状に屈曲しており、円柱状の突起や粘土紐の貼り付けが行われている。48は47の体部破片であろう。49・50は半截竹管による平行沈線に密に引くことで、浮線状をなしている。

■群 (51-55)

無文のものにも、繊維を含むものと含まないものがある。55は有孔の浅鉢であろう。

その他

小片であるが須恵器の杯や甕の破片が出土している。杯の底部には糸切痕が観察できる。

石器

石鏃3点、石匙1点、磨石3点のほか、黒曜石などの剥片約40片程が出土している。

石鏃は1・2が黒曜石で、3がチャート製である。1は基部のえぐりが深く、側縁部が湾曲している。石匙は刃部中央が節理面から剥離している。裏面はつまみのえぐりを除き、加工痕はない。磨石はいずれも安山岩製で、いわゆる「特殊磨石」と呼ばれるものが2点と、一般的な磨石がある。

IV まとめ

遺構

調査で検出された遺構は土坑などわずかであり、時期が判断できるものは数基にすぎない。これらのうち、4・7号土坑については落とし穴としての機能が考えられる。閉塞により上部が倒平されているため一般的な落とし穴に比べ小型であるが、底部にピットを持ち、長軸方向も同じであることから一連の施設であり、一定の間隔で並んでいたものと思われる。12号土坑は、縄文時代早期から前期初頭に見られるいわゆる「袋状土坑」で、その性格については不明な点が多く、千曲川流域では類例も少ない。今後の資料増加に期待したい。

遺物

今回の調査で出土した土器は量的にはわずかであるが、内容は豊富である。最も多かった押型文を持つ1群土器は、栴檀文が多い点や、無文帯を持たず密接施文が多い点、施文がすべて横位である点から考えれば細久保式土器の範疇に含まれるが、まとまった資料ではないため、そのほかの土器が含まれている可能性がある。

結条体圧痕文を持つ2群土器は、横位に整然と施文されている点や、隆帯上を半截竹管状の工具で押ししている点など新しい要素が見られ、早期末から前期初頭に位置付けられる。3群の条状文の土器は、絡状体圧痕文の土器の体部になるとと思われる。

4群の太い撚糸文は横位に施文されており、あまり類例を見ない。ただ、6群に分類した41と同一個体であるとすれば、41の文様構成が田戸式土器に類似することから、田戸式土器併行期とも考えられる。

5群の縄文の土器には、繊維を含むものと含まないものがあり、時期的には前期初頭から諸磯式まで含まれていると思われる。ミガキが施されループ文を持つ31は関山式であり、良く精製された胎土で白色粒を含む35-37は神ノ木式と思われる。

6群の刺突文を持つ土器のうち、43は板状の工具による刺突を行っておりあまり例を見ないが、戸倉町の幅田遺跡から出土している黒浜併行期の土器に類似性を見ることができる。44・45は楯筒状工具によるもので、胎土に繊維も含んでいないことから神ノ木式と思われる。46は弥生時代後期吉田式土器と思われるが、ほかに遺物がなく不明である。

8群の無文の土器のうち繊維を含むものは、器面調整も荒くミガキなども行われていないことから、早期末の土器と考えられる。また、55は諸磯B式の浅鉢であろう。

調査では、縄文時代早期から前期、そして弥生時代・平安時代の遺物までが広範囲から出土している。昭和38年に行われた調査では、縄文時代中期初頭と後期から晩期の遺物も出土している。しかし出土量はいずれもわずかで、平安時代を除き住居跡も検出されていない。このような傾向は、大池南遺跡など更地市西山地域の標高600m以上に点在する遺跡に共通して見られる。これに対して千曲川沖積地に舌状に張り出した台地上には、戸倉町の幅田遺跡に代表されるような縄文時代の集落が展開している。おそらく両者は何らかの関係を持って成立していた遺跡であり、当時の生活様式、生産のあり方を知るうえで興味深い。



第17図 池尻遺跡調査風景

池尻遺跡
1トレンチ北側
(東側より)



1トレンチ中央
(北側より)



1トレンチ中央
(北側より)





池尻遺跡
1 トレンチ南側
(北側より)

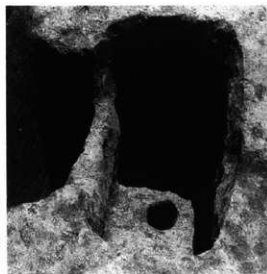


2 トレンチ
(南側より)

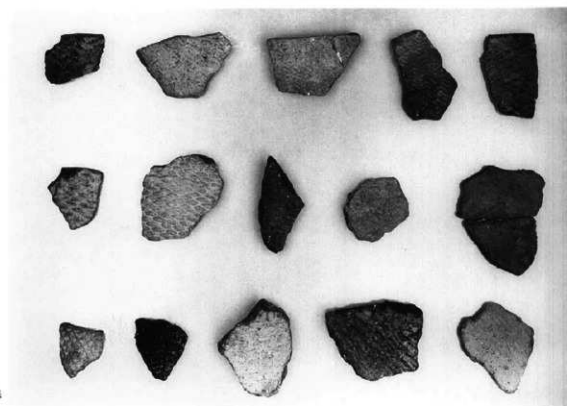


3 トレンチ
(北側より)

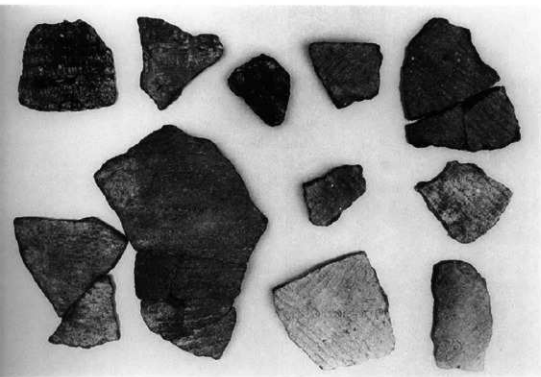
池尻遺跡
 左：4号土坑
 (北側より)
 右：7号土坑
 (北側より)



左：10・11号土坑
 (北側より)
 右：12号土坑
 (西側より)



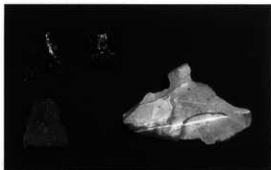
1・2群土器



池尻遺跡
3・4・5群土器



6・7群土器



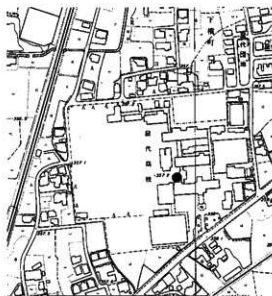
左：5群土器27
右：出土石器

4 馬口遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 馬口遺跡 (市台帳No31-4)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字馬口1000番地
長野県屋代高等学校
- 3 原因及び
事業者 公共事業=便所建設
長野県屋代高等学校
- 4 調査内容 発掘調査 (調査面積約30㎡)
- 5 調査期間 平成9年6月23日～6月25日
- 6 調査費用 360,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
参加者 岡田栄子 柳沢君雄 柳沢悦子
- 8 種別・時期 水田跡 平安時代
- 9 遺構・遺物

水田跡	平安時代	1面
溝跡	時期不明	1基
ビット	時期不明	1基
土器片	平安時代	コンテナ 1箱



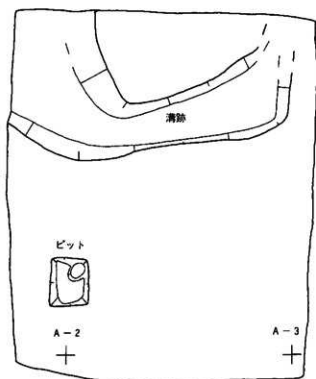
第18図 馬口遺跡調査位置図

II 調査の所見

屋代高等学校外便所建設に伴い発掘調査を行ったものである。これまでの調査成果から、本調査地点は平安時代の水田域に該当する部分であると考えられており、現地表下約1.2m (標高356.10m付近)において水田面を検出した。調査地区内からは畦畔等遺構の検出はなく、水田土壌を検出したことにより、面としての水田跡を把握したものである。出土遺物は土師器と須恵器の小破片が数点出土しているだけで、図化できたもの1点のみである。水田土壌中より出土した須恵器杯蓋であり、内外面・断面ともセピア色を呈している。

水田面の下層からは、溝跡とビット各1基を検出した。溝跡は幅0.6～1.2m、検出面からの深さ最大20cmを測り、「コ」の字形に折れ曲がって調査区外へ延びている。ビットからは直径約20cm程の柱痕が確認でき、掘立柱建物跡の一部とも考えられるが、調査区内から検出したビットは1基のみであるため掘立柱建物を構成しているかどうか現時点では不明である。出土遺物はない。

今回の調査は、30㎡余りと非常に限られた範囲の調査であったが、これまでの調査成果を裏付ける結果を得ることができた。屋代遺跡群の全容解明のためには、今後もこのような小さな調査成果の積み重ねが重要となってくるであろう。

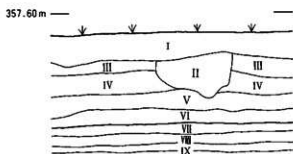


X= 60152.793
Y=-32523.970

X= 60153.230
Y=-32521.001

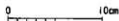


土層断面図



- | | |
|-----------------|--------------------|
| I 造盛土 | VI 灰茶褐色砂 |
| II 攪乱 | VII 灰褐色粘質土(平安時代水田) |
| III 暗褐色粘質土(旧水田) | VIII 黒灰色粘質土 |
| IV 暗黄褐色土 | IX 灰茶褐色土 |
| V 黒灰色砂 | |

出土遺物



第19図 馬口遺跡全体図及び出土遺物

馬口遺跡調査風景
(西側より)



水田面全景
(南西側より)



水田面下層
(南西側より)



5 中ノ宮・南棄水遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 *****
中ノ宮・南棄水遺跡
(市台帳No15・152)
- 2 所在地及び
更埴市大字森北中ノ宮2453-4 他
土地所有者 長野県土地開発公社・更埴市
- 3 原因及び
公社事業=宅地造成
公共事業=道路建設
事業者 更埴市(建設課)
- 4 調査内容 発掘調査(調査面積約1,200㎡)
- 5 調査期間 中ノ宮遺跡
平成9年7月1日～7月4日
南棄水遺跡
平成9年10月1日～11月13日
- 6 調査費用 4,208,260円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 矢島安雄 更埴市教育委員会・森將軍塚古墳館
- 8 種別・時期 集落跡 弥生～平安時代
- 9 遺構・遺物 住居跡 弥生時代 7棟・平安時代 5棟
墓 平安時代 1基
土器片 弥生～平安時代 コンテナ 21箱



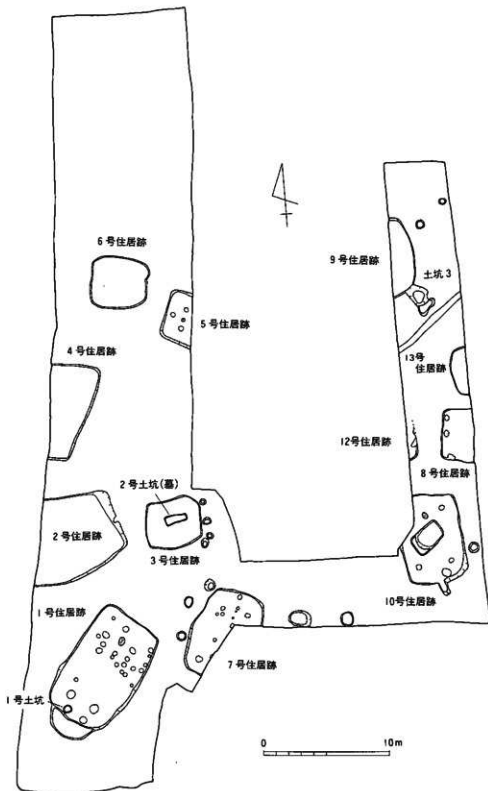
第20図 中ノ宮・南棄水遺跡位置図

II 調査の所見

中ノ宮遺跡の調査地点は、大塚山から西に延びた尾根の裾にある約200㎡ほどの小さな平坦部である。試掘調査時に弥生時代の土器片が出土したことから発掘調査を実施したが、弥生時代後期の土器片を含む遺物包含層が確認されたのみで、明確な遺構等は確認されなかった。

南棄水遺跡は、尾根の北側の山麓に広がる弥生時代から平安時代の集落遺跡である。本遺跡では平成3年度の工場建設時に遺跡の保護を図るために、削平造成から盛土造成に計画変更をお願いし、遺跡の保護を図った経緯がある。

今回の調査で弥生時代後期の住居跡を検出したが、いずれも沢山川の氾濫により砂利を含む土砂により埋まっていた。そのうちの1号住居跡には、南側に入出口と考えられる半円形の張り出しが設けられていた。今後の整理調査でその性格を検討したい。



第21图 南瀬水遺跡全体图



南粟水道跡
調査区全景
(南側より)



1号住居跡
(東側より)



1号住居跡遺物出土状態
(南側より)

6 湯ノ崎遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 湯ノ崎遺跡 (市台帳No94)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市 更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=公園建設 更埴市 (都市計画課)
- 4 調査内容 発掘調査 (調査面積約600㎡)
- 5 調査期間 平成9年7月2日～10月9日
- 6 調査費用 3,968,827円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男



第22図 湯ノ崎遺跡調査位置図

8 種別・時期	集落跡・古墳	古墳時代			
9 遺構・遺物	住居跡	古墳時代	2棟		
	古墳	古墳時代	2基	土坑墓	中世 16基
	土器片	古墳時代～中世	コンテナ	3箱	
	金属器	古墳時代	コンテナ	1箱	
	人骨	中世	コンテナ	1箱	

II 調査の所見

調査は、平成8年度に検出した1号墳の周辺及び尾根上に調査区を設定して実施した。検出した遺構は古墳2基、中世土坑墓等である。調査地は越前軍塚古墳から南西に延びた尾根上にあたり、これまで横穴式石室を内部主体に持ち、7世紀後半の築造と考えられている一本松古墳の存在が知られていただけであった。この調査により新たに古墳群を構成していることが明らかとなった。

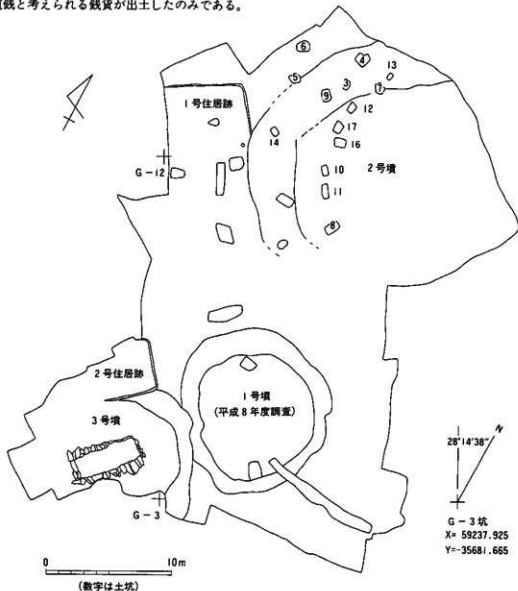
1号墳は平成8年度に調査を行ったもので、墳丘はすでに削平されていたが、直径10m程の円墳と考えられる。周溝内より出土した土器より5世紀後半の築造と考えられる。

2号墳は、墳丘の南側及び西側が削平されていたが、直径約20mの円墳であると考えられる。高さは最大3.1mを測るが、主体部を検出することはできなかった。墳丘の周囲には幅4m程の周溝を巡らせている。調査では半周ほどしか検出できなかったが、墳丘を全周するものと考えられる。周溝覆土内からは石製の勾玉のほか、比較的まとまった量の遺物が出土している。小破片が多く全容を知り得るものは少ないが、高杯・小型丸底土器・有段口縁壺・甕等が出土している。このうち高杯は杯部下半に稜をもち、裾部にかけてやや強く広がる脚部を持ったものである。出土遺物から、2号墳は5世紀前半の築造と考えられる。

3号墳は直径約10mの円墳であると考えられるが、調査前は平坦地であったためその存在は全く予想できず、表土を取り除いて石室の一部が露出して初めてその存在が確認できたものである。墳丘は西側が削平されていたため、その全容をつかむことはできなかった。主体部は横穴式石室であり、奥壁から5.2mのところ仕切り石と考えられる石が置かれている。ここを玄門部とすると、本古墳の主体部は全長5.2m、幅2m、現存高1.7mを測る無袖式の横穴式石室であると考えられる。天井石及び羨道部は失われている。副葬品には耳環、ガラス玉、鉄鏃・刀子・馬具などがある。墳丘周囲には幅1.5m程の周溝を巡らせている。周溝内からは須恵器の高杯・大甕等が出土している。これらの出土物から、3号墳は6世紀末から7世紀前半にかけての築造と考えられる。

調査地周辺では、まず5世紀前半に2号墳が築造され、1号墳、3号墳、一本松古墳の順に築造されていったものと考えられる。しかしながら1号墳と3号墳の間には1世紀以上の時期差があるため周囲に該期の古墳が1基ないし2基存在していた可能性が大きい。

また、2号墳の墳丘周辺を中心として中世の土坑墓を多数検出した。昨年度の調査と合わせると、その総数は20基を超える。いずれの土坑墓からも目立った副葬品の出土はなく、数基の土坑墓から六道銭と考えられる銭貨が出土したのみである。



第23図 湯ノ崎遺跡遺構全体図

湯ノ崎遺跡
調査区全景
(西側より)



3号墳全景
(西側より)



3号墳石室
(南側より)





湯ノ崎遺跡
1号住居跡
(南側より)



2号住居跡
(北側より)



12号中世土坑墓
(南側より)

7 大宮遺跡 発掘調査

I 調査の概要

第1節 概要

- 1 調査遺跡名 おしろ 歴代遺跡群 おしろ 大宮遺跡 (市台帳No31-20 調査記号OMY)
- 2 所在地及び 更埴市大字雨宮字大宮
土地所有者 長野県
- 3 原因及び 公共事業=道路改良
事業者 更埴建設事務所
- 4 調査内容 発掘調査・一部立会調査 (調査面積約300㎡)
- 5 調査期間 平成9年10月28日～11月5日
- 6 調査費用 900,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
調査参加者 猿渡久人 金井順子 園光一穂 久保啓子 神戸富子 小林昌子 高野貞子
富沢豊延 中村文恵 宮崎恵子
事務局 西巻 功 下崎雅信 佐藤信之 小野紀男
種別・時期 集落跡 弥生～平安時代
遺構・遺物 弥生時代 竪穴住居跡 2棟
古墳時代 竪穴住居跡 1棟
時代不明 竪穴住居跡 1棟
出土遺物 コンテナ 1箱

第2節 調査の経過

平成9年度実施予定の事業として、更埴建設事務所から県単道路改良が上げられた。工事予定地が歴代遺跡群の大宮遺跡内であったため、9月30日、県教育委員会・更埴建設事務所・更埴市教育委員会により協議が行われた。協議の結果、発掘調査を実施して保護にあたることとなった。平成9年度に入り7月23日、調査方法について県文化財保護課と協議を行い、水道管等の埋設物があった場合は立会調査で保護にあたることとした。8月29日、更埴建設事務所と更埴市の間に委託契約が締結され、発掘調査の準備に入り、10月1日、安全管理について協議書を交わした。10月8・9日、道路の西側部分については水道管の埋設があったため、立会調査を実施し保護にあたった。10月28日、重機を入れ表土を除去し発掘調査に入り、11月5日に無事調査を完了した。12月15日、道路により埋蔵文化財の多くは破壊されており、調査期間が短縮されたため、委託契約の変更を行い委託料を減額した。

第3節 調査日誌

- 平成9年10月8日 道路西側部分について立会調査実施
- 28日 重機入り、表土除去を行う
- 29日 作業員が入り遺構検出開始。最初の住居跡検出
- 30日 調査が終わった北側から埋め戻しを始める
- 11月4日 井戸址の検出、掘り下げを行い、掘り下げは完了とする
- 5日 残った実測を行い、機材を撤収して現場作業完了とする

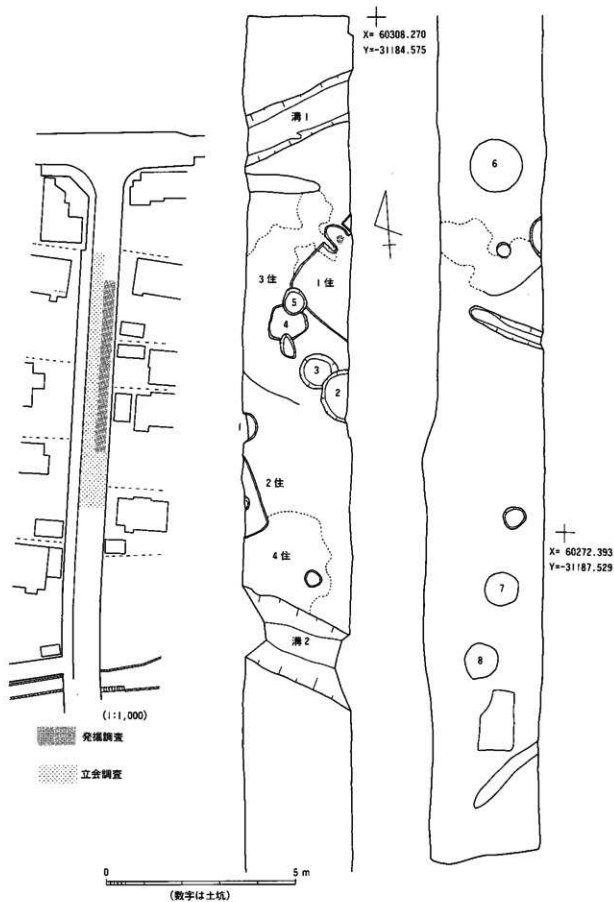
II 遺跡の環境

大宮遺跡は更埴市大字雨宮字大宮に位置し、大きく厩代遺跡群として包括されている。遺跡群は千曲川によって形成された自然堤防上に位置しており、標高355m前後で東西2.5km、南北1km程の広がりを持っている。また遺跡群の西側は栗佐遺跡群へと続いており、東西3kmにわたって展開する大遺跡群となる。遺跡群内において大宮遺跡は東端の地を占めており、遺跡内には雨宮坐日吉神社がある。高速自動車道の建設に伴い、長野県埋蔵文化財センターによって実施された調査では、多量の木簡が出土し、厩代遺跡群内に官衙が存在した可能性が指摘されているが、この雨宮坐日吉神社の所在地が官衙と何らかの関係があったのではないかとする考えもある。また、定額寺であった厩代寺の推定地も一部大宮遺跡にかかっていると考えられ、遺跡内からは瓦なども出土している。

大宮遺跡では、昭和58年に雨宮坐日吉神社の西側が調査されており、古墳時代から平安時代の住居跡16棟のほか、厩代寺瓦や須和田式土器の影響を強く受けた弥生式土器なども出土している。



第24図 大宮遺跡位置図



第25図 大宮遺跡調査位置及び遺構全体図

III 遺構と遺物

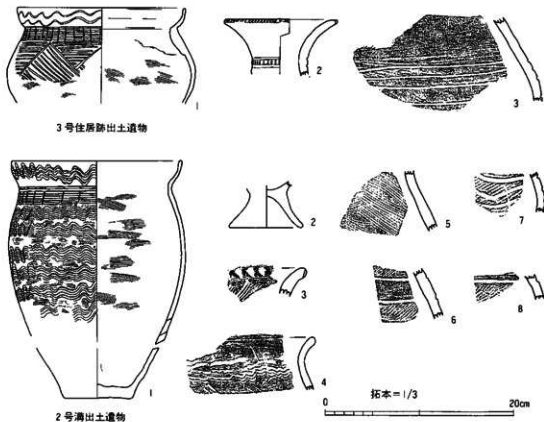
今回の調査は、現在県道として使用されている道路部分の調査であったため、南北に走る道路を東西に分けての調査となった。したがって、調査区は幅3m程で遺構の全容を知り得たものはない。また、西側の調査区は水道管等の埋設物によってすでに破壊されていたため、立会調査によって保護に当たった。

弥生時代

3号住居跡

構造：1号住居跡の西側から検出されているが、良く締まった床面だけで、壁などは残っていない。床面の状況から円形の住居跡であったと考えられる。

遺物：床面に炭化物が集中する部分があり、その地点から出土している。1は口縁部が受口状となる甕で、頸部に籐状文が施され、胴部は鋸歯状に区画した内部を沈線で埋めている。2は壺で、口縁部は端部をわずかにつまみ出し小さな波状とし、縄文を施している。頸部には平行沈線で区画し内部を刺突した文様帯を持つ。3は壺の胴部破片である。このほか赤色塗彩された大形の鉢の破片なども出土している。



第26図 大宮遺跡3号住居跡及び2号溝出土遺物

2号溝

構造：調査区中央付近から検出された遺構で、4号住居跡の床面を切っている。N-60°-Wの方向に延びており、幅175cm、深さ60cmで、断面形は上部の開くU字状となる。覆土は暗褐色の粘質土一層で、水の流れた痕跡は見られない。

遺物：底部付近からはほぼ完形の甕1が出土している。受口状となる口縁部と胴部には波状文が施され、頸部には籐状文が巡らされている。2は台付甕の脚部と思われる。3-5は甕の破片で、6-8は壺の破片である。

古墳時代以降

1号住居跡

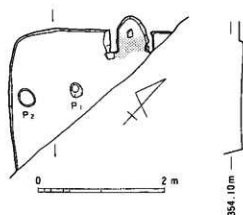
構造：調査区北側から検出された遺構で、東側は調査区外にある。3号住居跡を切って構築されており、主軸方向をN-50°-Wに持つ。壁高は上部が削平されているため、5cm程しか残っていない。規模は不明であるが、カマドの位置から、一辺4m前後の隅丸方形の住居跡と思われる。カマドは壁面よりやや突出して作られており、粘土製で袖の先端に角礫が立てられている。火床は良く焼けており支脚として角礫が立てられている。カマド付近の床面は顕著であったが、壁付近は不明確であった。2本のピットが検出されており、P₁は深さ約40cmで支柱穴と考えられるが、P₂は5cm程しかなく、性格は不明である。

遺物：出土遺物は少なく、1・4はカマド内から出土した。1-3は土師器の杯で、1・2は内面黒色処理が施されており、2・3は体部に小さな稜を持つ。4は内面黒色処理された鉢で、胴部に最大径を持ち口縁部がわずかに開く。

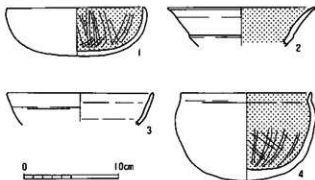
3号土坑

構造：3号住居跡の床面を切って構築されており、2号土坑に切られている。直径1m程ではほぼ垂直に掘り込まれており、約1mまで掘り下げたが底部には達しなかった。覆土上部には10-40cmの角礫が含まれている。5・6号土坑も角礫が含まれていなかったが同様の規模を持っており、井戸と考えられる。覆土の状態などから、中世以降の遺構と考えられる。

遺物：角礫に混ざって布目瓦が出土している。1は2次焼成を受けており凸面の調整は不明であるが、2は縄叩き

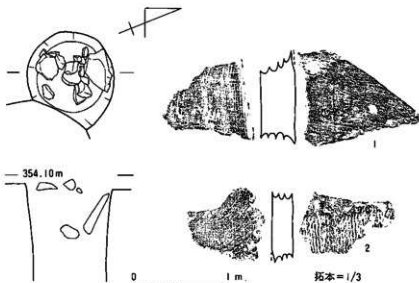


第27図 大宮遺跡1号住居跡



第28図 1号住居跡出土遺物

の痕跡を残している。
共にいわゆる屋代寺瓦
であろうが、今まで出
土した屋代寺瓦の調整
は格子叩きかほとんど
で、縄叩きは例をみな
ない。



IV まとめ

今回の調査は、住宅
密集地の県道を片側交
互通行にして実施した
ものであり、調査期間

も限られ、また道路下に埋設物などもあったため、西側部分については立会調査で対応せざるを得なかった。遺構は調査区の北側に集中しており、2号溝より南側の掘り込みは、いずれも近世のものである。また調査区南端付近からは泥炭状の土層で、五十里川の流域となる。

調査は、古墳時代から平安時代の集落の存在を想定し開始したが、弥生時代中期以降の住居跡が検出されている。残念ながら道路の建設などにより、上部が削平されていたため、床面しか残っていなかったが、弥生時代中期の集落の広がりを知る重要な手掛かりとなる。弥生時代中期である栗林期の住居跡は生仁遺跡や島遺跡で検出されているが、いずれも沢山川や五十里川をはさんだ対岸に位置している。共に河川改修は行われているが流路を大きく変えるものではなく、河川をはさんで集落が展開していたのか、あるいは小単位の集落があったのか興味深い。

屋代遺跡群で集落が最も広がったのは9世紀前後であり、遺跡群全体に広がっている。今回の調査では平安時代の遺構の検出はなく、遺物の出土も少ないことから、付近に平安時代の遺構が存在した可能性は少ない。このことは平安時代の集落の広がりを知る上で重要である。

大宮遺跡に隣接して、貞観8年(866)に定額寺に定まった屋代寺後に比定される地籍があり、昭和37年に行われた発掘調査で、礎石の一部が検出されている。遺跡の周辺からはおそらく数百点ともいわれる布目瓦が出土しており、「屋代寺瓦」と呼ばれている。今回の調査でも2点の布目瓦が出土しており、1点に縄目の叩きがあった。屋代寺瓦は桶巻き作りで格子叩きを施すのが一般的で、縄叩きを施したものは今までに見知していない。厚さも格子叩きのものに比べ半分程しかなく、屋代寺瓦の範疇に含めてよいのか疑問が残る。

最後に、調査にご協力いただいた更埴建設事務所、柳西小寺建設など関係者の皆さんに厚く感謝申し上げます。

第29図 大宮遺跡3号土坑及び出土遺物



左：大宮遺跡
調査区北側全景
（北側より）
右：調査区南側全景
（北側より）



調査風景
（北側より）



左：1号住居跡
（南側より）
右：3号土坑
（東側より）



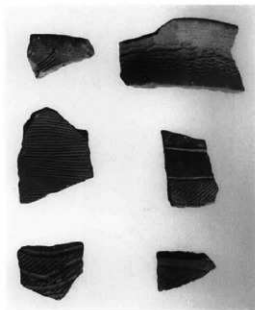


大宮遺跡

左上：3号住居跡
出土遺物

左下：2号溝
出土遺物

右：1号住居跡
出土遺物



左：3号住居跡
出土遺物

右：2号溝出土遺物

8・11 町浦遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 町浦遺跡 (市台帳No.31 調査記号MTU)
- 2 所在地及び 更埴市大字雨宮字町浦830 他
土地所有者 田澤佑一
- 3 原因及び 民間事業=倉庫建設
事業者 田澤佑一
- 4 調査内容 発掘調査 (調査面積約400㎡)
- 5 調査期間 試掘調査 平成9年7月4日
発掘調査 平成9年8月20日～9月25日
- 6 調査費用 1,860,000円・重機
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 9 遺構・遺物 住居跡 古墳時代 2棟 奈良・平安時代 10棟
墓 中世 2基
土器片 弥生～平安時代 コンテナ 10箱



第30図 町浦遺跡調査位置図

II 調査の所見

試掘調査により埋蔵文化財が確認されたため、基礎を浅くして保護する予定であったが、地盤が軟弱なため硬化が必要となり、発掘調査を行った。

発掘調査では、古墳時代2棟、奈良時代2棟、平安時代8棟の計12棟の住居跡が検出されており、ほかに、遺構の検出はなかったが、弥生時代の土器もまとめて出土している。

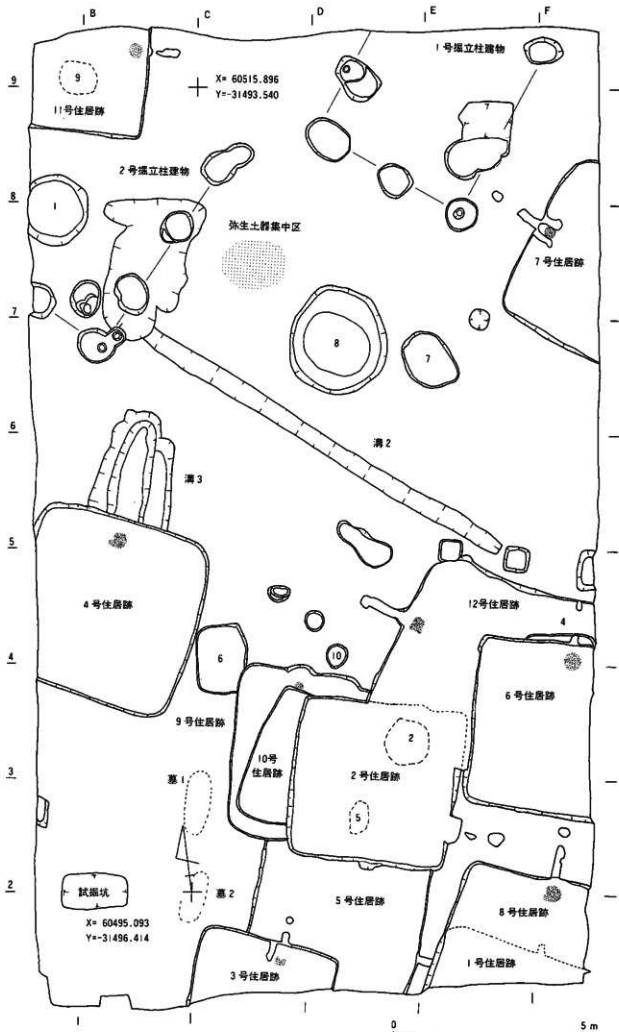
古墳時代の住居跡はいずれもカマドを持っており、6世紀に属するものと思われる。

平安時代の住居跡のうち、2号住居跡は仁和の洪水砂によって埋没した住居跡で、良好な状態で検出されている。カマドの遺存状態は特に良く、焚き口が崩れているものの、ほぼ原形で検出されている。また、遺物の出土も多く、鉄斧・紡錘車など7点の金属器が出土している。

これまで雨宮地区の自然堤防上では、この仁和の洪水砂といわれる砂層の存在が明確ではなく、洪水が雨宮地区に及ぼした影響(被害)については不明であったが、2号住居跡は一気に埋没しており、雨宮地区でもかなりの被害を受けたものと思われる。

平安時代では孤立柱建物跡も2棟検出されているが、調査区外に続いているため規模は不明である。その他、卜骨や厩代寺瓦なども出土している。

詳細は平成9年度に『町浦遺跡II』として報告書が刊行されている。



第31図 町浦遺跡遺構全体図

(数字は土坑)

町浦遺跡
調査区全景
(南側より)



2号住居跡
(南側より)



2号住居跡カマド
(南側より)



9 屋代遺跡群 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群 (市No.31 調査記号YD)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字雨宮字町浦484-2
前山和枝
- 3 原因及び
事業者 学術調査＝屋代遺跡群の範囲確認
更埴市教育委員会 (文化課)
- 4 調査の内容 発掘調査 (調査面積約180㎡)
- 5 調査期間 平成10年2月18日～3月24日
- 6 調査費用 2,008,745円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
調査員 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡 弥生～平安時代
- 9 遺構・遺物 住居跡 古墳～平安時代 23棟
井戸 中世 2基
土器 弥生～平安時代 コンテナ 20箱以上



第32図 屋代遺跡群調査位置図

II 調査の所見

上信越自動車道建設に伴い、朝長野県埋蔵文化財センターによって実施された調査の際、国符・郡符を含む多数の木簡が出土しており、周辺に官衙が存在する可能性が指摘されていた。そのため、官衙の存在を確認し、保護することを目的として平成8年度から調査を開始した。

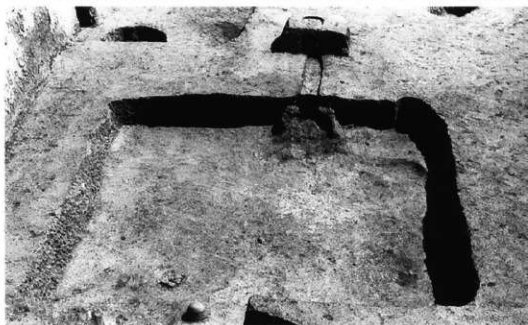
今年度は、土ロバイパス建設に伴う調査で大型の掘立柱建物跡が検出された地点の北側に、並列する建物跡が存在しないか確認するため調査を行ったが、検出することはできなかった。本調査地点を含む屋代遺跡群一帯は市内でも有数の遺構密集地帯であり、180㎡余りの調査範囲で検出された遺構は住居跡だけで23棟を数える。検出された住居跡は古墳時代から平安時代にかけてのものであるが、遺構の切り合いが激しく、また調査範囲が限られていたため全体をうかがい知ることのできた住居跡はわずかである。土ロバイパスの調査で検出された大型掘立柱建物跡は、平安時代の住居跡より先行するものであったため、今回の調査でも住居跡の調査を行った後にさらにその下層への掘り下げを行った。その結果、掘立柱建物跡と考えられる柱穴群を検出することができたが、大型掘立柱建物跡に比して柱穴の規模が小さく、また大部分が調査区外へと続いているため、その関係については明らかにすることはできなかった。

調査は平成8年度から継続して実施されており、調査完了時にまとめて報告書を刊行する予定である。

屋代遺跡群
調査区全景
(北側より)



377号住居跡
(南側より)



11号掘立柱建物跡
(西側より)



10 更埴条里水田址

試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴条里水田址 (市台帳No29)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字返町106-3 他
塩入寿子 他
- 3 原因及び
事業者 民間事業=ビニールハウス建設
ちくま農業協同組合
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ3か所)
- 5 調査期間 平成9年6月3日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 水田跡 平安時代
- 9 遺構・遺物 水田跡 平安時代 1面



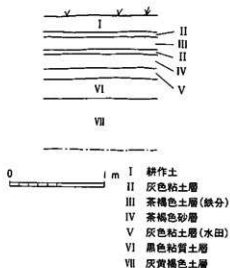
第33図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

調査地は森將軍塚古墳館の北東約100mの地点で、建設予定地内に3か所の試掘坑を設定し、調査を行った。

耕作土の下には鉄分を集積した茶褐色土があり、その下には厚さ15cm程の灰色粘土が、一部溝状に落ち込んでいる部分がある。おそらく、ほ場整備前の水田と思われる。地表下40cmには「仁和の洪水」で条里水田を覆ったとされる茶褐色の砂層があり、厚い部分で15cmを測るが、薄い部分では数cmしかない。この砂層は条里水田全体で見ると、厚いところでは灰色であるが、薄い部分では鉄分が付着し茶褐色となるものと思われる。砂層の下は条里を示す水田面で、さらには下は漆黒の粘質土が20cm程堆積している。県立歴史館建設に伴い実施された調査では、縄文時代晩期の遺物が出土した層であるが、今回遺物の出土はなかった。地表下85cmから下層は灰黄褐色土が厚く堆積している。

当該工事は、盛り土を行ってビニールハウスを建設するものであり、直接埋蔵文化財に影響を与えることはないので、調査後、工事を実施した。

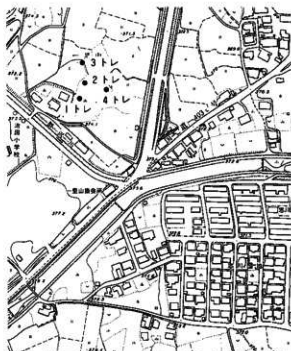


第34図 更埴条里水田址土層断面図

12 治田池遺跡隣接地 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 治田池遺跡 (市台帳No85)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字稲荷山字治田1332
榑ツルヤ
- 3 原因及び
事業者 民間事業=店舗建設
榑ツルヤ
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ4か所)
- 5 調査期間 平成9年12月4日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期
- 9 遺構・遺物 なし



第35図 治田池遺跡調査位置図

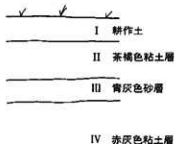
II 調査の所見

建設予定地は埋蔵文化財の存在が確認されている周知の遺跡ではないが、治田池遺跡の隣接地であり、開発規模も大きいことから事前に試掘調査を行った。トレンチは180cmまで掘り下げたが、出水が激しくそれ以上の掘り下げは断念した。

標高の高い北西側に設定した2・3トレンチでは、耕作土の下に茶褐色の粘土層や砂礫層が観察されたが、1・4トレンチでは植物遺体を含んだ青灰色の粘土層が100cm前後の厚さで堆積しており、その下は砂礫層となり湧水が激しい。

調査の結果、当該地での埋蔵文化財の存在は確認されなかった。

3トレンチ



0 1 m

第36図 治田池遺跡土層断面図

13 屋代城跡 試掘調査

I 調査の概要

- | | |
|------------------|--|
| 1 調査遺跡名 | 屋代城跡 <small>やししろじょう</small> (市台帳No183) |
| 2 所在地及び
土地所有者 | 更埴市大字小島字新大門町3034-1 他
日本勤労者住宅協会 |
| 3 原因及び
事業者 | 民間事業=宅地造成
日本勤労者住宅協会 |
| 4 調査内容 | 試掘調査 (トレンチ5か所) |
| 5 調査期間 | 平成10年1月19日 |
| 6 調査費用 | 重機負担 |
| 7 調査主体者
担当者 | 更埴市教育委員会
小野紀男 |
| 8 種別・時期 | 城館跡 中世 |
| 9 遺構・遺物 | なし |



第37図 屋代城跡位置図

II 調査の所見

建設予定地は屋代城の直下に当たるため、城跡に関連する遺構の存在を想定し、試掘調査を行ったが、以前にシェル石油のオイルタンクがあった部分であり、すでに大半が掘乱されていた。

調査の結果、当該地での埋蔵文化財の存在は確認されなかった。

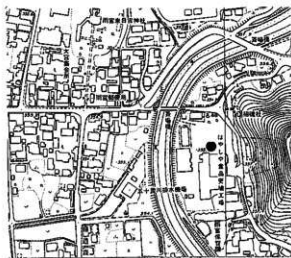


第38図 屋代城跡試掘風景

14 唐崎遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 唐崎遺跡 (市台帳No.34)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字雨宮字唐崎918-1
鞠アイリーはやしや
- 3 原因及び
事業者 民間事業=工場建設
鞠アイリーはやしや
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ4か所)
- 5 調査期間 平成10年2月9日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡 弥生~平安時代
- 9 遺構・遺物 なし

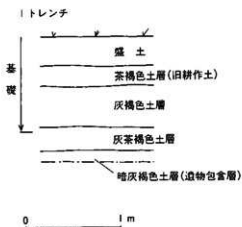


第39図 唐崎遺跡調査位置図

II 調査の所見

建設予定地内に4か所の試掘坑を設定し調査を行った。20~40cmの盛土を掘り下げると、旧畑の耕作土が20cm程堆積しており、その下は灰褐色土が約35cm、灰茶褐色土が25cm程堆積している。地表下120cmからは、遺物の出土はないが、遺物包含の可能性のある暗灰褐色土が堆積しており、150cmまで掘り下げたがその下の層には達しなかった。

工事で掘り下げは地表から100cmまでであり、遺物包含の可能性のある土層まで達しないため工事を実施した。

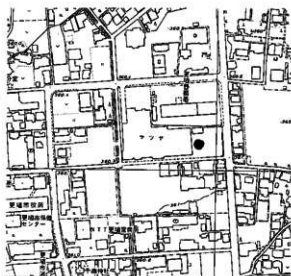


第40図 唐崎遺跡土層断面図

15 南沖遺跡 立会調査

I 調査の概要

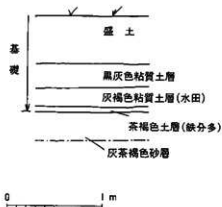
- 1 調査遺跡名 なみき 南沖遺跡 (市台帳No28-2)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字粟佐字南沖1600-1
エムケー興産㈱
- 3 原因及び
事業者 民間事業=店舗建設
エムケー興産㈱
- 4 調査期間 平成9年4月4日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 8 遺構・遺物 なし



第41図 南沖遺跡調査位置図

II 調査の所見

基礎部分の掘り下げの際、立会調査を行ったが、60cm前後の盛り土があり、その下は造成前の水田となる。水田の下は灰茶褐色の砂層となり、その下が遺物包含層と思われるが、基礎は砂層中におさまっているため、遺構・遺物の検出はなかった。



第42図 南沖遺跡土層断面図

16 宮西遺跡 立会調査

I 調査の概要

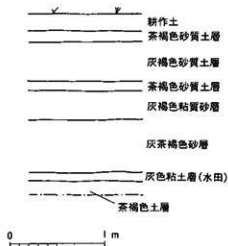
- 1 調査遺跡名 宮西遺跡 (市台帳No28-8)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字粟佐字宮西1255-1
亘 郁郎
- 3 原因及び
事業者 民間事業=モデルハウス建設
セキスイハウス信州㈱
- 4 調査期間 平成9年5月7日・6月3日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 8 遺構・遺物 水田跡 平安時代? 1面



第43図 宮西遺跡調査位置図

II 調査の所見

当該工事は、建物の基礎による掘り下げが盛り土内におさまるため、土留め工事と浄化槽の掘り下げの際、立会調査を実施した。土留めは現状の水田面をわずかに掘り下げる程度のものであった。浄化槽工事による掘り下げは190cmで、耕作土の下は灰褐色の砂質土や砂が140cm程堆積しており、その下に水田と思われる灰色粘土層がある。出土遺物がな
いため時代は不明であるが、上部の砂層から、更埴集里
と同じ時代の水田と考えられる。

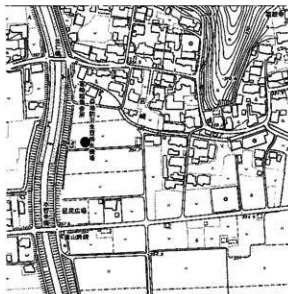


第44図 宮西遺跡土層断面図

17 島遺跡 立会調査

I 調査の概要

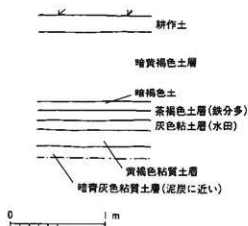
- 1 調査遺跡名 島遺跡 (市台帳No.32-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字生蓋字島60-1 他
榊林不動産
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地分譲
榊林不動産
- 4 調査期間 平成9年5月26日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 集落跡 弥生~平安時代
- 8 遺構・遺物 水田跡 不明 1面



第45図 島遺跡調査位置図

II 調査の所見

耕作土の下には沢山川によって運ばれた暗黄褐色土が70cm程堆積している。その下には鉄分を多量に含んだ茶褐色土が10cm程の厚さに堆積しており、これを取り除くと灰色粘土層の水田跡となる。工事による掘り下げは、茶褐色の鉄分を含んだ層までであったが、さらに掘り下げを行うと、地表から約140cmで異臭を放つ暗青灰色の粘質土となり、当時はここが湿地帯であったものと思われる。



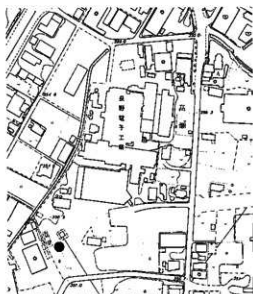
第46図 島遺跡土層断面図

18 城ノ内遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 城ノ内遺跡(市台帳No31-7)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代1393
長野電子工業㈱
- 3 原因及び
事業者 民間事業=工場建設
長野電子工業㈱
- 4 調査期間 平成9年6月4日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 集落跡 古墳時代~中世
- 8 遺構・遺物 なし



第47図 城ノ内遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査地は既存の建物により攪乱されており、埋蔵文化財は確認されなかった。

19 横まくり遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 横まくり遺跡(市台帳No85-10)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字八幡字御頭免2166-1
長坂建設㈱
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地分譲
長坂建設㈱
- 4 調査期間 平成9年9月2日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 集落跡 弥生~平安時代
- 8 遺構・遺物 なし



第48図 横まくり遺跡調査位置図

II 調査の所見

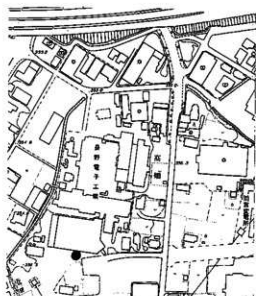
耕作土を掘り下げると、暗茶褐色や白色を帯びた粘土層が60~100cm程堆積しており、その下は砂層となる。湧水が多く以前にはここは湿地帯であったと思われる、埋蔵文化財は確認されなかった。

20 城ノ内遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 しほのまち 城ノ内遺跡 (市台帳No31-7)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代1393
長野電子工業㈱
- 3 原因及び
事業者 民間事業=工場建設
長野電子工業㈱
- 4 調査期間 平成9年9月24日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 小野紀男
- 7 種別・時期 集落跡 弥生時代~中世
- 8 遺構・遺物 なし



第49図 城ノ内遺跡調査位置図

II 調査の所見

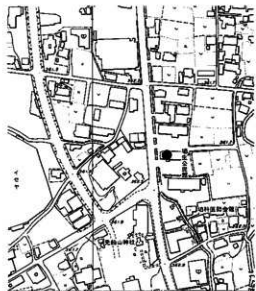
30cmの盛土があり、その下には旧耕作土・暗褐色の砂質土が約30cm堆積していた。さらに下には暗茶褐色土が20cm程堆積している。基礎の掘り下げは90cmまでで、包含層には達していなかった。

21 土井合遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 どいまい 土井合遺跡 (市台帳No24)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字椋堂字土井合569-1
長野スバル自動車㈱
- 3 原因及び
事業者 民間事業=店舗建設
長野スバル自動車㈱
- 4 調査期間 平成9年10月6日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 小野紀男
- 7 種別・時期 集落跡 古墳時代
- 8 遺構・遺物 水田面 近世以降 1面



第50図 土井合遺跡調査位置図

II 調査の所見

約40cmの盛土があり、その下には茶褐色の粘質土をはさんで水田面があるが、近世以降のものと思われる。地表下100cm程からは砂層となり、ほかに遺構や遺物の検出はなかった。

22 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴条里水田址 (市台帳No29)
- 2 所在地及び 更埴市大字森字兎田172
土地所有者 ㈲長野県農業開発公社
- 3 原因及び 民間事業=倉庫・事務所建設
事業者 農事組合法人 更埴花卉球根組合
- 4 調査期間 平成9年10月15日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 7 種別・時期 水田跡 平安時代
- 8 遺構・遺物 なし



第51図 更埴条里水田址調査位置図

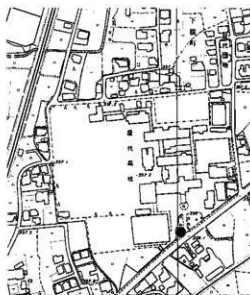
II 調査の所見

当該工事は30cm程の盛土を行い実施されるものであり、建物も軽量鉄骨造であるため、基礎の掘り下げも45cmまでであった。したがって掘り下げは現耕作土内であり、包含層には影響なかった。

23 馬口遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 馬口遺跡 (市台帳No31-4)
- 2 所在地及び 更埴市大字屋代字馬口1000
土地所有者 長野県屋代高等学校
- 3 原因及び 公共事業=三旗掲揚塔建設
事業者 長野県屋代高等学校
- 4 調査期間 平成9年11月12日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 小野紀男
- 7 種別・時期 集落跡・水田跡 古墳~平安時代
- 8 遺構・遺物 なし



第52図 馬口遺跡調査位置図

II 調査の所見

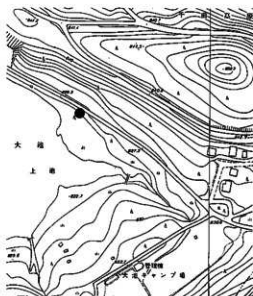
工事での掘り下げは約85cmであったが、45cmまでは盛土であり、その下は旧耕作土で、埋蔵文化財の包含層まで達していなかった。

24 大池南遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おおいけのなま 大池南遺跡 (市台帳No45-1)
- 2 所在地及び土地所有者 更埴市大字八幡字芝山
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び事業者 公共事業=道路建設
事業者 更埴市(農林課)
- 4 調査期間 平成9年12月3日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 集落跡 縄文時代
- 8 遺構・遺物 なし



第53図 大池南遺跡調査位置図

II 調査の所見

ローム層まで掘り込んでいたが、北向きの傾斜地であり、遺構・遺物の検出はなかった。

25 大境遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おおさかい 大境遺跡 (市台帳No31-13)
- 2 所在地及び土地所有者 更埴市大字屋代字大境1304-1
土地所有者 久保高久
- 3 原因及び事業者 民間事業=宅地造成
事業者 久保高久
- 4 調査期間 平成9年12月3日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 集落跡 弥生時代~中世
- 8 遺構・遺物 なし



第54図 大境遺跡調査位置図

II 調査の所見

20cm程の盛土があり、その下には暗褐色の砂質土が60cm程堆積している。さらにその下には仁和の洪水砂と思われる灰褐色の砂が堆積していたが、工事による掘り下げは90cmまでであり、埋蔵文化財は検出されなかった。

27 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴 条里水田址 (市台帳No.29)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字森字壱丁646-1
土地所有者 仰アート模型
- 3 原因及び
事業者 民間事業=店舗建設
事業者 仰アート模型
- 4 調査期間 平成9年12月22日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 水田跡 平安時代
- 8 遺構・遺物 なし



第57図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

工事で掘り下げは90cmまでであり、65cmの盛土があるため埋蔵文化財の包含層まで達していなかった。

28 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴 条里水田址 (市台帳No.29)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字森字276-1 他
土地所有者 長野県
- 3 原因及び
事業者 公共事業=水路改修
事業者 長野地方事務所
- 4 調査期間 平成10年1月19日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 水田跡 平安時代
- 8 遺構・遺物 なし



第58図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

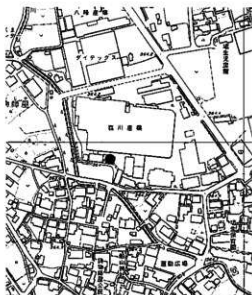
当該工事は水路を拡幅するものであり、矢板を打って実施された。したがって掘削範囲も狭く、ほぼ以前の水路で攪乱された部分であった。また湧水が激しく、埋蔵文化財の存在は確認できなかった。

29 鋳物師屋遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 鋳物師屋遺跡 (市台帳No178)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字鋳物師屋150
森川産業㈱
- 3 原因及び
事業者 民間事業=工場建設
森川産業㈱
- 4 調査期間 平成10年2月3日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 7 種別・時期 集落跡 弥生時代~平安時代
- 8 遺構・遺物 なし



第59図 鋳物師屋遺跡調査位置図

II 調査の所見

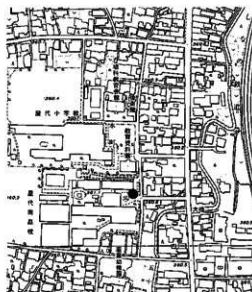
工事での掘り下げは20cm程で、すでに攪乱されている部分であった。

30 五輪堂遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 五輪堂遺跡 (市台帳No28-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代2104
長野県屋代南高等学校
- 3 原因及び
事業者 公共事業=三旗掲揚塔建設
長野県屋代南高等学校
- 4 調査期間 平成10年3月18日
- 5 調査費用 なし
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 小野紀男
- 7 種別・時期 集落跡 弥生~平安時代
- 8 遺構・遺物 なし



第60図 五輪堂遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事では地表下130cmまで掘り下げたが、30cm程の盛土があったため更地条里水田を覆う砂層中で、遺構・遺物の検出はなかった。

報告書抄録

ふりがな	へいせい9ねんど こうしやくしまいぞうふんかざいちょうさほうこくしよ							
書名	平成9年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集者名	佐藤信之							
編集機関	更埴市教育委員会 文化課 文化財係							
所在地	〒387-8511 長野県更埴市杭瀬下84					TEL 026-273-1111		
発行年月日	1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
いけ 池尻	ながの県更埴市 大字桑原	20216	83	36 31 41	138 4 17	19970820 ~19970925	700	マレットゴルフ 場建設
ばち 馬口	長野県更埴市 大字屋代	20216	31-4	36 32 30	138 8 12	19970623 ~19970625	30	高等学校便所建 設
みや 大宮	長野県更埴市 大字南宮	20216	31-20	36 32 35	138 9 6	19971028 ~19971104	200	県道改修工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
池尻	散布地	縄文時代	土坑	13基	縄文土器・石鏃・特 殊磨石・須恵器		落とし穴と思われる 土坑検出	
馬口	生産	平安時代	水田面	1面	須恵器			
大宮	集落跡	弥生時代～ 古墳時代	住居跡	4棟	栗林式土器		弥生中期～古墳時代 の集落の一部	

平成9年度更埴市埋蔵文化財調査報告書

発行日 平成10年3月31日

発 行 更埴市教育委員会

〒387-8511 長野県更埴市杭瀬下84番地

電話 (026) 273-1111

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和田470

電話 (026) 243-2105
